

「ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト」

読書活動支援者育成事業 地区別研修

主催：福島県教育委員会

読書ボランティア研修会

目的：学校や図書館で活躍する読書推進ボランティアの専門的な知識や技能の向上を図る。

実施日：平成29年9月27日（水） 10：20～16：30

場所：福島市吾妻学習センター（福島市笹木野字折杉41-1）

参加者：60名

第1部

10:30～12:00

講話「おはなし会は基本から」

JPIC読書アドバイザー

宇野君代 氏

1 はじめに

- ・ページをめくることは、未知の世界に出会うことである。絵本には対象年齢はあるが、その絵本を読む適切な時期には個人差がある。読みたくなった時を大切に、本を好きになってもらいたい。本を読むことで心が豊かになることにつながるものである。



2 読み手としての準備と練習

- ①引用箇所や絵や図など見せたい箇所に付箋を貼る。声の出し方、持ち方を練習する。自分の持ち時間を見通すことや配布プログラム作成。複本の用意が必要である。
- ②読み聞かせを行う仲間がいれば、情報の共有や互いの読み聞かせを練習し合うとよい。
- ③「あいうえお」たいそいで、滑舌の練習をすると母音がはっきりして子どもたちが聞きやすくなる。

3 絵本の見せ方・読み方

- ・見せ方は、聞き手の発達段階を考慮したページのめくり方やページを戻すことも必要である。必要に応じて、取り出し読みをすることも有効である。
- ・読み方は、ゆっくり、はっきり、自然体で。内容が伝わるように、登場人物に応じた声で読む。

4 プログラム作りの前に

- ・コース料理を味わわせるように、多様なものを組み合わせ、満足感を感じさせたい。導入は、お話に子どもを招き入れる大切な時間。低学年の集中力は20分が限界。聞かせたい話を前倒しでやる。

5 プログラムの組み方

- ・全体のバランスを考え、子どもたちの実態にあったプログラムにすることが大切。年齢に幅があるときは、小さい子を基準に行う。付き添いの大人も学びができる内容を組み入れる工夫もしたい。

6 複数の読み手でのプログラム

- ・大型絵本や分かち読みなど、子どもたちの実態にあったプログラムにすることが大切である。

【参加者からの声】

- ・読み聞かせの会を学校図書館で行うようになってからまだ日が浅いので、プログラムの組み方や様々な本の紹介、読み方など、とても参考になる内容でした。学んだことを実践したいと思います。
- ・自分の知らない読み聞かせのテクニックを知ることができました。実践させていただきます。
- ・例年この講座を受講していますが、今年は改めて、いつも実践している「読み聞かせ」を振り返る機会になりました。先生方の様々な考え方の良さを感じました。

第2部

13:00~14:00

演習「福島に伝わるわらべ歌で楽しもう」

わらべうたの会

松本 貞子 氏

1 はじめに

- ・子どもが群れて遊ぶ機会が少なくなってきた。そのような時代だからこそ、「手遊び・わらべうた」を子どもたちに伝えていくことが求められる。



2 「手遊び・わらべうた」の実践

① 「いっぽんばし こーちょこちょ」

- ・親が自然に子どもの顔を見ることで、親子の温かいふれ合いが生まれる。子どもの反応を見て健康状態を把握できる。

② 「あそぼ」

- ・名前を呼ばれたら返事や返答をする。遊びの中でコミュニケーション能力やあいさつの習慣化が図られていく。

③ 「ひとつひよこは」

- ・2人で向かい合って遊ぶ。様々なパターンは自分たちで考えても良い。

④ 「坊さん坊さん」

- ・遊び方は、「かごめかごめ」と同じ。昔はみんな顔見知りだったので名前が言えた。顔見知り同士のメンバーで行う。

⑤ 「芋人参」

- ・お手玉での遊び。年齢に応じて、パターンを変えて、難易度を変更するとおもしろい。

⑥ 「富貴万福末繁盛」

- ・みんなで丸くなって行うお手玉遊び。昔は紙風船でも遊んでいることが多かった。



3 演習の様子から

- ・参加者も様々な年代の方がいたが、年配の方々は懐かしく、若い人には新鮮な感覚でみんなが楽しんでいった。演習に参加しているときの笑顔がとても印象的であった。研修を楽しく受ける姿から実際のこれからの読み聞かせに生きる内容であった。

【参加者からの声】

- ・演習では、「みんなであそぼ」「うたで呼吸をあわせる」ことができると、年齢や立場に関係が無く、心から楽しめることを思い出しました。
- ・わらべうたの演習がとても楽しく学べた。特別支援学級の児童もよく来室するので、これから実践していきたいと思います。
- ・手遊び、お手玉が盛り上がり、とても楽しかったです。子どもたちにぜひ伝えていきたいと思いました。
- ・わらべうたの演習は、楽しさを初めて実感することができました。これからは生かしたいです。

第3部

14:10~16:20

講義・本の紹介「子どもと本をつなぐ読み聞かせの選書」

桜の聖母短期大学非常勤講師

邊見美江子 氏

1 読み聞かせの本を選ぶ

- ①図書館で所蔵している本を選ぶ。
- ②子どもの読書年齢・読書体験にあったものを選ぶ。
- ③各種の参考図書を活用する。

2 年代別に

①0～2歳児

- ・親子で歌いながらの手遊び、わらべうた等の遊びを組み入れる。乳児の基本的な生活を中心とした絵本など、シンプルな絵でリズムカルな分かり易い文章のものがよい。

②3～5歳児

- ・小道具を使った話や、歌いながらの手遊び等を組み入れる。情緒の安定、心の安定につながるような内容のものがよい。

③小学校低学年

- ・時間内で読み切れる絵本等がよい。参加型の話や手遊び、小道具を使っておはなし会も効果的。

④小学校中学年～高学年

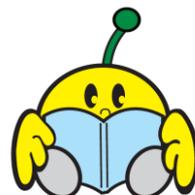
- ・絵本から物語へと移行する時期なので、「耳からの物語体験」をさせたい。
- ・読み聞かせ 【新見南吉「あめ玉」】

⑤中学生～高校生

- ・児童書から一般書（文学書）へのギアチェンジが必要である。物語の読み聞かせが、その橋渡しになれるとよい。

3 絵本の紹介「わたしのおすすめの本」

- ・参加者一人一人が「わたしのおすすめの本」を持ち寄り、その本を選んだ理由や思いを紹介した。本の内容や物語のストーリーだけでなく、絵に対する思い入れやそのとき時の時代背景、実践で経験した具体的なお話など有意義な情報交換を行うことができた。



【参加者からの声】

- ・読書に関わり、選書の難しさは痛切に感じます。選書基準を明確にするための参考図書をたくさん知ることができました。
- ・選書については、具体的に参考資料をたくさん教えていただいて、ありがとうございました。自分でおはなし会を作っていくときに、気をつけるべき点をはっきり分かり易い言葉で表していただいたことで安心できました。ことばの一つ一つがわたしにとって、とてもなじみのある事例や気持ちに充ちていて納得できました。
- ・参加者がおすすめの絵本を通して、絵本の見方、選び方、感じ方、いろいろあると感じました。自分に無い観点だったので参考にしたいです。また、私も是非読んでみたいと思いました。